



ロシア語のALTの夢

青森県立青森南高等学校外国語指導助手
Shachneva Elena
シャチニューア・エレナ

日本！私が生まれ育った極東ロシアのハバロフスク市から飛行機でたった2時間半の大好きな国！日本は極東ロシア人がとってとって憧れる不思議な魅力に満ちた国です。ハバロフスク市、ウラジオストク市、サハリンでは、2年に一度は日本を訪れる人が少なくありません。私が初めて日本に来たのは中学生の時で、しかも青森県への見学旅行でした。その時の感動はとて言葉では表せないほど大きなものでした。数年後、東京に住んでいる友人を訪ねて2度目の来日をした時、「日本で働けたら幸せだ！」と思いました。今、その夢が実現し、私は青森南高校でロシア語のALTとして生徒と楽しい毎日を過ごしています。

青森南高校外国語科

青森南高校には、普通科のほかに県内唯一の外国語科が各学年に1クラスあります。県内には英語科のある高校は2校ありますが、青森南高校の外国語科の大きな特徴はロシア語の授業があることです。「どうして高校でロシア語を？」という質問をよく受けますが、1992年に青森県と極東ハバロフスク地方の友好協定が締結されたことが大きなきっかけです。その2年後の外国語科スタートの時からロシア人ALTによるロシア語の授業が始まりました。

昨年は友好協定20周年の記念イベントが行われましたが、90年代には地元のみちのく銀行の支援で小・中学生の交流が行われ、展覧会・コンサート・スポーツイベントなどもたくさんあった

ようです。青森—ハバロフスク間の直行便もあり、青森南高校の生徒もハバロフスクを訪問していました。現在は直行便がなくなり、文化交流の機会が減っているのが残念でなりません。

青森南高校外国語科で私が一番驚いた外国語科の特徴は、英語によるプレゼンテーションです。青森県とアメリカ合衆国のメイン州が姉妹協定を結んでおり、青森南高校とメイン州のMaine Central Instituteは姉妹校にもなっています。2年生はアメリカへ語学研修に行き、そのメイン州の学校で日本の伝統文化について英語でプレゼンテーションを行わなければなりません。そのため、外国語科の授業では語学力はもちろん、国際理解力と自己表現力を高めます。初めてプレゼンテーションを見た時、指導法の素晴らしさとレベルの高さに感動しました。

ロシア語の授業

ロシア語は第2外国語として1・2年次に週2時間の授業があります。3年次は英語とロシア語の選択で週2時間の授業です。ロシア語には英語と紛らわしい文字や独特の文字があり、英語より



外国語科2年6組、最後のロシア語の授業、2012年3月

もはるかに複雑な語尾変化があるため、生徒にとって勉強は楽ではありません。ロシア語が苦手科目にならないように、できるだけ楽しく、同時に学習効果

が出るように日本人の先生といろいろな工夫をしながら授業をしています。

外国語科の生徒は、大学入試の面接でロシア語を話すことを求められることがあります。そのため、いつでも、自己紹介ができるように指導しています。本当は英語と同じように、ロシア語でプレゼンテーションができるまでにロシア語レベルを高めることが夢ですが、現在、青森ではロシア人と直接コミュニケーションをとる機会がとても少ないのでなかなか難しい状況です。ロシアへの興味を喚起するのはロシア語のALTの大事な使命だと思います。

ロシアと日本は隣国とはいえ、実は、人々の考え方、メンタリティー、生活スタイル、慣習、ファッション等は全く異なります。ロシアの半分は地理的にアジアに位置しますが、文化的にはヨーロッパです。私は、日本に一番近いヨーロッパの国家であるロシアの特徴、生活習慣、本にはあまり載っていない事実などを生徒に知ってもらいたいと思い、授業では、ロシアの映画、アニメ、家庭料理の作り方のビデオやNHKのロシア語講座を見せたり、ロシアの伝統、生活習慣に関するプレゼンテーションをしたりします。昨年はロシア語の歌を教え、文化祭で披露しました。また、普通科のクラスにも同じようにロシアについてのプレゼンテーションをすることもあります。



青森南高校文化祭1年7組
ロシア語で歌を歌う、2012年7月

ロシア語コンクール

2010年までは札幌大学主催のロシア語スピーチコンテストに参加していましたが、2011年



第41回全国ロシア語コンクール、
2012年6月、東京（右が筆者）

からは東京で行われる日本ユーラシア協会と東京ロシア語学院主催の全国ロシア語コンクールに出場し、2年連続で奨励賞を受賞しました。

このコンクールの出場者はロシア語レベルがとても高いので高校生にとっては大きな挑戦です。主張したいことを表現するため、語彙と文法を学んで原稿を書き、暗記して、内容に関する質問に答える練習をします。とても大変なことですが、本番では緊張しながらも集中して発表しました。入賞して喜ぶ生徒を見て「ああ、うちの生徒は本当にえらい！」と心の底から誇りに思いました。これらの生徒は上智大学のロシア語科に進学しました。生徒の頑張りとお成功を見た時に一番やりがいを感じます。

私の夢

ALTとしてロシア語を教えるのは3年目です。日本の生活にも、仕事にも慣れ、先生方と先輩の支援のおかげで困っていることはありません。青森南高校に来て国際交流の大切さを再認識しました。学校にはしばしばアメリカやアジアからお客さまがお越しになり、生徒たちは積極的に楽しく交流しています。そして外国語を一生懸命勉強しています。私が一番うれしいのは「エレナみたいに外国語がぺらぺらになりたい！日本語も英語も得意でかっこいいね！」と生徒に言われることです。私自身が国際理解を深め、交流のロールモデルになりたいと思っています。今の私の夢は生徒のロシアへの研修旅行を復活することです。多くの生徒がロシアに行ってみたいと希望しているからです。大好きな生徒たちに「ロシア語を学んでよかった！」と思ってもらえるようにこれからも頑張ります。



Shachneva Elena

2005年ハバロフスク国立教育大学を卒業し、日本語教師、通訳、ガイドとして仕事をしました。2010年にJETプログラムに合格し、現在は青森南高校のロシア語ALTをしています。